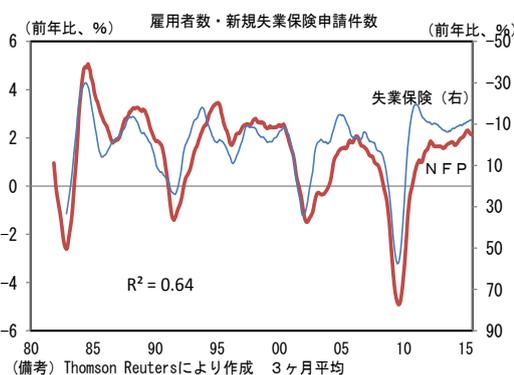
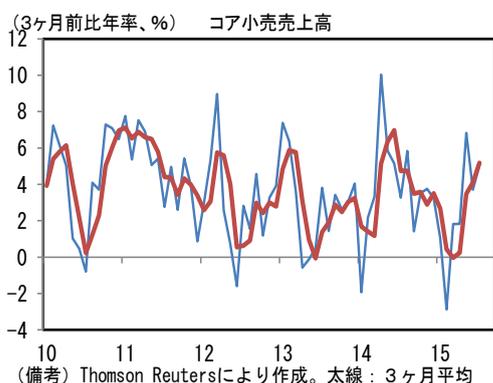
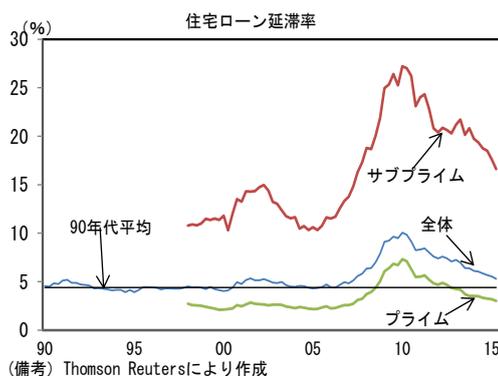


【海外経済指標他】～コア小売：堅調～

- ・ 7月小売売上高は前月比+0.6%と市場予想に一致して加速を確認。同時に6月分(▲0.3%→+0.0%)は上方修正された。既発表の7月自動車販売台数が示唆していたとおり自動車が+1.4%と強く伸びたほか、ガソリンも+0.4%と堅調。それらを除いたベースでは+0.4%と市場予想に一致。こちらも6月分が大幅に上方修正(▲0.2%→+0.2%)されており好印象。最重要項目のコア小売売上高は+0.3%とやや伸びを欠いたが、過去分が上方修正されたこともあって3ヶ月前比年率の伸びは+5.2%へ加速。年前半の谷が深かったとはいえ、13ヶ月ぶりの強いモメンタムであり、消費者の楽観姿勢を裏付けている。
- ・ 新規失業保険申請件数は27.4万件と前週から0.5万件増加したものの、4週移動平均は26.6万件と1973万件以来の低水準を記録。2015年3月から23週連続の30万件割れで労働市場の順調な回復を示している。目下の失業保険申請件数は雇用統計NFPが年率2%強、毎月25万人ペースで増加することと整合的。



- ・ 米MBA住宅ローン延滞率(2Q)は5.30%と1Q(5.54%)から改善。内訳はプライムが3.01%、サブプライムが16.62%と共に前期から低下。住宅ローン延滞率は約5年に亘り低下を続けているものの、90年代の平均(4.4%)よりは依然として高い水準にあり、銀行の貸出態度がなお厳格化した状態にあることの背景となっている。与信基準の緩和にはローン延滞率の持続的な改善が必要だろう。



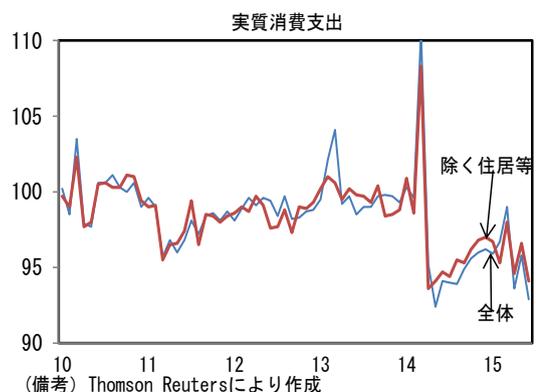
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は横ばい。NYダウが小幅反発もS&P500は小幅下落。米指標への反応は限定的。欧州株は総じて堅調。12日の大幅安の反動から買い戻し優勢。
- ・前日のG10通貨はUSDの強さが目立った。過去3日程度、CNYの下落がUSDの乱高下に繋がっていたが、そうした動きは一服。USD/JPYは124前半、EUR/USDは1.11半ばで一進一退となった。
- ・前日の米10年金利は2.185% (+3.7bp) で引け。欧州債はコア軟調、GIPS堅調。独10年金利が0.630% (+2.5bp) で引けた一方、イタリア (1.783%、▲4.1bp)、スペイン (1.952%、▲2.6bp) は金利上昇で引け。

【国内株式市場・経済指標他】

- ・日本株は、動意に乏しいなか小幅下落で寄り付いた後、もみ合い。
- ・17日発表予定の実質GDP成長率(4-6月期)について、弊社日本経済チームは前期比年率▲3.5%と大幅なマイナスを見込んでいる。当社の予想どおりとなれば、コンセンサスが▲1.8%なのでネガティブサプライズとなる。不振の主因は①停滞する個人消費、②弱い輸出、③在庫投資の下押し。特に①は家計調査ベースの実質消費支出が4月と6月に“まさかの前年割れ”を記録するなど、その弱さは一目瞭然。その説明として天候不順、セール時期のズレ、統計の歪みなど多くの要因が指摘されているが、それはごく一部を説明するに過ぎず、やはり基調が弱いとの判断が妥当。2015年4-6月期に限らず、消費増税後の消費が弱いのは消費増税による節約志向の強まりが根源だろう。②についてはアジア向け輸出の減少が響いた。1-3月期に急回復した反動もあるが、中国経済の減速がNIEESに波及、ASEAN諸国も冴えない内需と自国通貨安が重石となり苦戦が続く。③の在庫の下押しは翌期の成長加速にはポジティブな材料だが、所詮は意図せざる在庫増が消化されたに過ぎず、好感すべき事象ではない。
- ・日本の実質GDPは2014年1-3月期に景気後退後のピークを更新した後、再び停滞感を強め、ゼロ成長状態が続いている。名目GDPが消費増税後も円安・原油安・物価上昇を追い風に順調な拡大を遂げているため、企業収益が拡大し、それを映じて株価が上昇するのは自然なのだが、それでも実質ベースの成長率が停滞感を強めていることは失望的だ。今回のGDP統計は、政府に景気対策を促すほか、日銀には成長率見通し下方修正と追加緩和を迫ることになりそうだ。筆者は日銀が2016年4月に追加緩和に踏み切るとの見方を据え置くが、2015年10月の展望レポート発表に向けて追加緩和期待が高まる可能性はあるだろう。



<主要株価指数>

	終値	前日比
日経平均※	20516.40	-79.15
N Y ダウ	17,408.25	5.74
D A X (独)	11,014.63	90.02
FTSE100 (英)	6,568.33	-2.86
CAC40(仏)	4,986.85	61.42

<外国為替>※

USD/JPY	124.42	-0.03
EUR/USD	1.1153	0.00

<長期金利>※

日本	0.384 %	0.000 %
米国	2.185 %	0.037 %
英国	1.840 %	0.046 %
ドイツ	0.630 %	0.025 %
フランス	0.948 %	0.022 %
イタリア	1.783 %	-0.041 %
スペイン	1.952 %	-0.026 %

<商品>

N Y 原油	42.23 ^{ドル}	-1.07 ^{ドル}
N Y 金	1115.70 ^{ドル}	-7.50 ^{ドル}

※は右上記載時刻における直近値。図中の点線は前日終値。

(出所) Bloomberg

